



軍神「大越中佐」 名古屋師團で慰霊祭

李官保に戦死の 當時を偲ぶ生地内郷村

日露戦争の三大軍神として稱
廣瀬中佐と共にその武名を
全世界に轟かせた大越兼吉
中佐の出生地たる内郷村では
例年軍神戦死の三月七日を期
して慰霊祭を執行して来たが
今年に入建二十週年に相當し
全国的に各種の記念事業が計
畫されてゐる折例として同村
も當日は白水願成寺に於て同
村在郷軍分會 育訓所 青年
會等發起の下に盛大な追悼
式を舉行する事になつた、向
同中佐出征當時の所屬名古屋
師團では當日此の軍神の爲め
に同様全師團擧げて追悼祭を

豫算會一日で終了 町制實施以來稀有 一千五百圓の増加修正 戸數割平均手引下り

(既報) 平町の豫算委員會は二
千五百五十一圓を増額する委
員會の修正案を決議し、入
日午前十時から町會議室に於
て開會野崎副議長委員長とな
り各項細目により慎重協議を
進めた結果町長報酬原案一千
二百圓を四百二十圓増額一千
六百二十圓に、助役給額六
十圓を各も増額修正、此れ
により原案三十四萬三千八百
九十四圓の豫算總額を三十四
萬五千四百四十五圓に合計一
千五百圓の増加修正

昨日日曜
一月十五日
午後五時
場所指定
發行所
新報社

常識講座

今夜の宴會はビシ
かと云ふのは「たゞ」か
の意だ、英語ではない
日本で云ふイロハのイ
を除く、ロハ即ち只を指
すものに似て英語の
イロハであるエ・ビ
・シーに轉じたもの

町會本會議召集 明五日後一時から 委員會案滿場一致通過か

(別項) 僅一日で豫算委員會が
終了した結果青沼町長は五日
午後一時から町會本會議を招
集する事になつたが當日は野
崎委員長から委員會の審議經
過を報告後委員會の修正案内
容を説明直ちに採決に入る等
であるが議場一致委員會案の
通過を豫想される

青沼町長 委員各位の 努力に感謝

總額三十五萬圓に達する形大
な豫算が些細の修正により一
萬千五百圓一日だけで豫算委員
會を終了したのは全國でも稀
有の事であり町會が青沼財政
への信任を意味してゐる點で
各方面に好評だが喜びの青沼
町長は
自分は多忙で委員會にも出
席詳細説明する事が出来な
かつたが野崎委員長以下委
員各位の熱心な精勵により
原案に些細の修正が加へら

夏井村の阿部醫學士 博士論文通過

磐中四月から二高入學の秀才
糖質代謝(特に糖尿病)の論文
石城郡夏井村長阿部龍藏氏の 去る大正九年磐中四年終了と
令息實氏は目下東京市本所病 同時に第二高等學校より帝大
院に奉職中であるが同氏は豫 醫學部に入り昭和三年三月同
ねて提出されてゐた林内教授 大學院に入學し前記の研究に
されたる糖質代謝(特に糖尿 液頭、後昭和七年十月大學院
病)に関する論文は其の爲め 満期退學同年駒込病院に奉
職その翌年現在の本所病院に 轉勤して今日に及ぶ未だ三十
のてたが去る二月二十三日 台の少壯者である

臭い泥的捕はる 平驛の汚物を盗んで 只で貰へると思つた

飯野村北白土鹽佐吉外二名は
年四十二歳で平驛の汚物取
りを請負つてゐるが最近何人
か汲とるため何時來ても空戻
りばかりするのを驛前交番に
犯人取り押へを願ひ出たが昨
三日午後一時頃若い男二人が
原町まじりで汚物汲みをやつ
てゐるのを發見警部長が原
石城郡聯合青年團第三分部の
聯合青年の總會

久保田主任轉 任挨拶

今次東鐵異動で品川機關車主
任に榮轉高等官技師に昇任し
久保田中機師主任は四日平
町青沼町長各方面に轉任の
挨拶廻りをなした

五十嵐博士の 懸賞入選

賞金を平野人事
相談所へ寄附
平町磐城共濟病院副院長醫學
博士五十嵐雄二氏は新界の最
高權威たる醫學新報が募集し
た懸賞百ヶ條に懸賞審査の結
果三等首席に入選決定一日付
で賞金一百圓を授與されたの
で同博士は今日平野署の人事
相談所に基本金の一部として
金二十圓の寄附を申出た

家出少年 空腹でヘタバル

四日午前六時頃平町驛前附近
をウロウロ今にも倒れそうな
様子で徘徊してゐる二十才前
後の男があるのを平野署員が發
見取調ると此の男は山形縣米
澤市御守町生れ政太郎三男西
須政廣(み)で去二十八日青雲
の志を抱いて無断家出上京の
途中旅費を使い果して一文な
しとなり徒歩で上京しやうと
したが空腹の余り同所に辿り
付いたものと判明本署に保護
を加へ家人を呼び出して本人
方を願出た

磐城史改纂の急要 其の諸問題 (上)

諸根(飯川刺史氏)の
寄稿に編輯子の時言
歴に努めた結果再び
吾人が常に心懸くべきでなか
らうか、
一村一町一縣一國の歴史は
とりもなほさず其の文化史で
あり文明史であると同やう、
推しに我が石城の地たるや
この歴史或は吾人が祖先の記
たゞならざるに一瞥するであ
らう、

四倉築港負擔 金の起債認可

石城郡四倉町の漁港修築費は
總額四十四萬圓で此の四分の
一(十一萬圓)を地元が負擔す
ることになつてゐる其れを町
に於て六万圓漁業組合に於て
五萬圓を支出するものに對し
町では昭和九年年度の一萬二
千圓を起債認可申請中であつた
が去月未申請の通り認可され
た同案港上事は十年年度一杯を
以て完成される豫定であつて
第二期工事を希望する同町で
は更に此の實現に積極動を開
始する由

酌婦逃走 情夫共謀

當時茨城縣大津町料理店坂本
アキ方酌婦東京市小石川區
水川町下町生れ高田長乃(三)
は去月二十八日前借四百七十
圓で同家に抱えられたが翌一
日平町から尋ねて來た新聞記
者と目撃する瘦身の男二人と
共謀前借を踏み倒して逃走し
たが平町南町ときは屋方にそ
の前日まで抱えられてゐたも
ので情夫があつたらしく平町
に入り込んでゐる形跡がある
ので四日平野署に搜索取り押へ
方を願出た

外套拂下 タツタ八十錢で

日露役の
陸軍省では明治三十八年日露
戦争當時滿州出征軍人に着用
せしめた防寒純毛製外套を
一般に拂下げる旨町役場宛通
たいと



清物 (一)

農林省勸業課... 清物の少ないのは... 汁の最も少ないのは... へで再製塩が少ない... 塩はその品様に等級があつて... その等級のよき程苦汁の含量も少ない... 今その等級によつて不純物の含量を表示すると... 一等鹽 〇% (不純物最少) 二等鹽 一五% (不純物) 上 (良) 三等鹽 二〇% (不純物) 中 (普通中等) 四等鹽 二五% (不純物) 中 (普通中等) 五等鹽 三〇% (不純物) 下 (悪) 塩十等 (悪) 等外下 (悪) 塩下等 (悪) 燃焼 (鹽に熱を充てて灰雜物を不溶解にする) しほを使ふ場合 書籍中に清物用には何時も良い鹽のみを用ふる様に記載されてあるが甘鹽に漬ける場合 (當座漬) には良い鹽を用ひ白炭、すまし汁味汁等には更に燒鹽を用ふ、 下漬用、土用以後に用ふる 濃縮漬には悪い鹽でよい、 悪いしほも年数が経つと良くなる、それは炭に入れて二三 年経つとすつかり苦汁が落ち て五等鹽でも二、三等の鹽にな ることがある、 漬物の際、鹽の分量を定め るに濃度を見れば正確なので あるがそれには比重計等を用 ひねばならぬ不便があり、目 方を見た方が簡單である即ち 再製鹽は一升、三百匁、三 四等鹽は一升、三五〇匁、 乃至三七〇匁、

使しほ一値が高い、漬物の 仕上げに使ふ場合はなか 使れない焼しほは普通しほを 火にあてしほ以外即ちえん水 ナトリウム以外の灰雜物を不 溶解にするのである、 その造り方は鍋でも何んか もよい一番よいのはフライパ ン燒鍋である、 食えんの見分け方 良品は色白く、結晶が細微 で重量が軽し、 焼しほ一準備製造 材料とその分量、中等しほ五 合、仕上量四合一六〇匁

油問屋 關内油店 電話 16 警 平

支店 平野町 電話 三二八

支店 友部 電話 三二八

支店 友部 電話 三二八

支店 友部 電話 三二八

支店 友部 電話 三二八

お醤油は ヤマフル

山崎合名會社

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

電話 一〇番

電話 一〇番

電話 一〇番

電話 一〇番

新装 カクニ石鹼 發賣

品質優秀 價格低廉

大衆本位ヲ主眼ト

シテ生レタ弊店自

慢ノ石鹼デス...

是非御愛用ヲ...

ツルヤ 電一四〇

安價で効果的な 天然加里肥

最も適應する作物!

蔬菜 馬鈴薯 里芋 しやうが類

天然加里肥は酸性でないから 如何に施用しても土壌を悪變する虞は絶対にあり ません

一俵 參拾錢

製造販賣 金成國雅

貨物自動車 の御用命 に應じます

大森醫院

内科、小兒科

醫學士 大森 勇

平町南町 電話 二五八番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

平町南町 電話 五二三番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

平町南町 電話 五二三番

山崎與三郎

電話 一〇番

強力流經劑

治淋新劑 トリックス

山崎與三郎

電話 一〇番

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

鈴木 正男

平町南町 (電話 五八番) 藤田女子校前

入院應需 鈴木醫院

磐城共濟病院

院長 醫學士 石 山 謙 郎

副院長 醫學士 賀 一 忠

外科 醫學士 大 野 久 藏

皮膚科 醫學士 山 澤 謙 郎

泌尿科 醫學士 石 山 謙 郎

眼科 醫學士 石 山 謙 郎

耳鼻喉科 醫學士 石 山 謙 郎

衛生科 醫學士 石 山 謙 郎

事務局長 鈴木 正男

事務員 鈴木 正男

事務員 鈴木 正男

事務員 鈴木 正男

事務員 鈴木 正男

債券 公債 兩替 金融

多田井質店

平町大町 電話 五九一番